

各種緊急事態発生時の市役所職員体制構築について

大森 貴之



〔答弁〕危機管理課長

〔質問〕自然災害発生時の対応マニュアルについて、担当内容に従った人員の配置は明確なのか伺う。

〔答弁〕危機管理課長 市長を中心に災害体制を敷いて、参集範囲等を明確に規定し、職員を配置している。

〔質問〕担当に着手できない職員は明らかなのかを伺う。

〔答弁〕危機管理課長 参集した職員の中からその施設における総括指揮命令者や、補佐などを選定し対応することとしている。

〔質問〕マニュアルの継承、教育はどのように行なっているのかを伺う。

〔質問〕農林課におけるクマ対策の人員体制を

伺う。

〔答弁〕市長 令和8年1月から、農林課林業振興係に2人加配し、被害防止対策に当たっている。

〔質問〕クマ対策における、農林課と危機管理課の連携を伺う。

〔答弁〕市長 本市のクマ対策の主担当は農林課だが、環境問題に起因する対策は環境課、防犯に関する対策は危機管理課との連携が必要となることから関係課において情報共有や体制に関する検討を行なっている。

〔質問〕役割分担と人員の配置見直しはいつ行われるのか伺う。

〔答弁〕危機管理課長 毎年4月の人事異動の発表後速やかに行い、毎年の白石市総合防災訓練で行動確認を行なっている。

〔質問〕クマ対策の窓口がなぜ危機管理課ではなかったのか伺う。

〔答弁〕市長 緊急銃猟の体制整備、捕獲計画の作成、誘引木の伐採対応など、農林課職員が役割分担を行い対応に当たっている。

〔質問〕農林課におけるクマ対策の人員体制を

農林課職員だけで対応困難な場合は、全庁的な応援体制を構築し、対応に当たっていききたい。

「選ばれ、住み続けられる白石市」への政策について

村上 由紀



析している。

〔質問〕公立刈田総合病院の夜間や救急時の小児医療体制の課題と方向性を伺う。

〔答弁〕健康推進課長 昨年12月末、本市の人口は3万人を下回った。市民は市のためにできることを懸命に取り組んでいる。だからこそ「住み続けたい、選びたい」と思われる日常の満足度を高める市政が必要と考える。

〔質問〕3万人割れの要因を構造的にどう捉えているか伺う。

〔答弁〕企画政策課長 令和2年12月からこの5年間で3100人、人口の約1割の減少となる。出生者数の推移は令和4年度104人、本年度は70人程度となる見込み。20代から30代の若年層を中心に転出超過が続いており、この影響が急速な少子化の進行の二因と分

析している。

〔質問〕JR白石駅と白石蔵王駅のアクセスの評価と改善について伺う。

〔答弁〕まちづくり推進課長 バスの運行本数は十分確保されている。両駅専用のバス時刻表の内容を見直し、停留所付近への掲示や市のホームページで発信し、利便性向上を図っていききたい。

〔質問〕市民バス運用とデマンド交通への転換、併用について

〔答弁〕市長 市民バスは利用者の減少と財政負担の増加が続き、地域全体の交通ネットワークの再構築が必要と捉えている。多様な交通モードの導入も検討し実情に合った地域交通ネットワークの形成に努めていきたい。

〔質問〕公共交通と一体で、公共施設配置等長期計画のビジョンを早期に示すべきではないのか、見解を伺う。

〔答弁〕市長 公共交通や公共施設の整備を相互に連携することで相乗効果を図るとともに、小中学校再編の基本方針を確認後に、公共施設の将来像を作っていくことが効果的であると考えている。